



HPはこちら

東日本ユニオン NEWS

JR東日本労働組合
発責 情報宣伝部
2024年11月11日 No.813

業績は好調！出し渋りは許されない！

年末手当 Part ⑦



JR東日本労働組合
発行者 情報宣伝部
2024年11月9日 No.812

会社発足から6番目！1兆円超えの営業収益(単体) 社員の努力に満額回答で応える責任がある！

「2024年度年末手当」第2回団体交渉 東日本ユニオンの主張

- ★ 経営側のスタンスで語られた「もう一段の増収が必要」とは、どういうことか？
会社経営とすれば当たり前のことである！
何故、わざわざ年末手当の団体交渉の場であえて言うのか？
- ★ 会社の持続的発展や、生産性向上も当たり前のことである！
さらに加達させるのは社員1人ひとりである！
- ★ 単体の営業収益が1兆円を超えた！JR発足以降6番目の収益である！
経営側から社員の努力の中間が語られないのはなぜなのか！？
- ★ 中長期的な見通しが開かれるが、年末手当はあくまでも一時金である！
足元の業績は好調！半年間の社員の成果に対する配分を行うべきだ！
- ★ 現場では1人2役、3役の働き方をしている。
労働の質も上がり並々な努力をしている！
- ★ 私たちが「全力」で頑張っているにもかかわらず経営側に緊張感がない！
輪軸組立データ改ざん、隠蔽による社会からの影響は大きい！
会社として重く受け止めるのではなく「経営側」として重く受け止めるべきである！
- ★ 3年ぶりの1万円超の賞金改訂と言うが「やっと1万円上がった」である！
- ★ 当社の魅力は年末手当6.0ヶ月以上の水準であったが、最近はそのような、
働きがいは「賞金」「手当」によって得られる！
今の「賞金」「手当」では、達成感を感じられない！

ネガティブな主張ばかりを繰り返す経営側のみならず
出し渋りは許されない！これが社員の本音だ！

3.8ヶ月の支払いは体力は十分にある！満額回答を強く求める！

- ◆業績は回復しています！それでも会社は「厳しい状況」としてボーナスを抑え込もうとしています。社員の頑張りにしっかりと応えるべきです！（上信越）
- ◆会社の業績は回復してきていますが、社員への還元がありません。現場で働く社員を大事にしっかりと還元するべきです！（関東）
- ◆今まで以上に色々なことをやらされて、コロナ前以上に列車も混雑しています。現場で働いている社員に成果を配分するべきです！（関東）
- ◆営業収益がコロナ前に戻ってきています。会社は出し渋らず社員に出すべきです！（東北）
- ◆会社の業績は好調です！ボーナスのときだけ「先行き不透明」といって出し渋るのは許せません！（関東）

- ◆業績はすごく好調です！会社は「社員の生活設計を考えている」と言うのなら、ボーナスを出し渋る理由はありません！（上信越）
- ◆コロナで収入減となりボーナスが下げられました。社員みんなで日夜奮闘し、利益をここまで上げてきました。日々の業務や増収に対して一番頑張っているのは社員です。現場で奮闘している社員に成果を支払うべきです！（関東）
- ◆コロナ禍でボーナスが抑えられました。社員の努力で業績はコロナ前と同じくらいまで回復しています！これまで以上にボーナスを出すべきです！（上信越）
- ◆第2四半期決算が発表されました。コロナ前より良くなっています。これで出し渋りしたら、会社を辞めてしまう社員が出てきます。ここでしっかりと社員に投資するべきです！（関東）
- ◆会社は営業利益に着目していますがコストをコントロールしているのは会社であり、社員には関係ありません。業績を回復させてきた社員の奮闘にしっかりと応えるべきです！（上信越）
- ◆社員の仕事量が以前よりも増えています！会社は儲かっています。年末手当で社員に還元するべきです！（上信越）
- ◆会社を良くしたいと考えて様々な業務をやっていますが、労働の対価として今の賃金や年末手当は低いです。稼いでいるのは社員です！その社員に対して還元するべきです！（関東）

社員の奮闘に3.8ヶ月の満額回答で応えるべきだ！